



姉川と“妹川”とも呼ばれる高時川が合流する難波橋付近。

奥伊吹に端を発する姉川は全長約36キロに及び、湖北の平野部を蛇行しながら琵琶湖に注ぐ。この姉川に対して“妹川”と呼ばれる川がある。姉川の支流にある草野川、もしくは高時川を指す（その流域によって身近な川を親しみを込めてこう呼ぶ）。これは、当地の“姉川”と

妻とともに2匹の龍が池から飛び出し、それぞれ水を従えて麓へ下った。村や田畠を避けながら、やがて琵琶湖の近くで寄り添い、湖の中へ姿を消したという。その道筋は2つの川となり、村人たちはそれぞれ姉川、妹川と呼ぶようになった。

姉川は、もともと川床が周辺の平野部より高い天井川で、大雨になると度々氾濫を繰り返した。この民話はそういう“暴れ川”に対する治水への思いから生まれたものではないかという。

ちなみに、姉妹の龍が落ち合った場所は“落合”という地名で、この付近で姉川と高時川が合流している。



モデルコース
落合東バス停 10分 難波橋 10分 錦織橋・田川カルバート 10分 落合東バス停
※JR長浜駅から「落合東」までバス(浅井支所前行き)
で約20分
※移動時間はあくまでも目安です。

**“Walk on”とは**

「歩き続ける」という意味の他に、舞台をちょっと歩くだけの通行人のような「端役」の意味があります。多彩な伝説や物語をもつ歴史豊かな“近江”という舞台を、登場人物のひとりになった気分で歩いてみてはいかがでしょう。

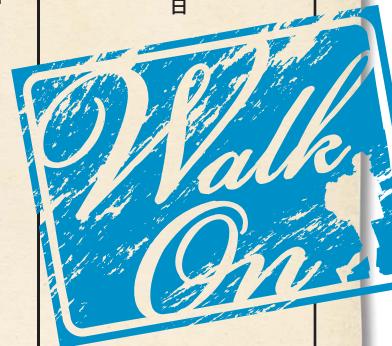
姉川

あね がわ

長浜市
DATA

- 天候 小雨
- 歩行距離 約2.5km
- 歩行時間 約1時間

日 2013年6月11日



姉妹の龍が洪水から村を救った物語

高時川の錦織橋付近に「田川カルバート」と呼ばれる川の立体交差がある。田川は高時川の支流だったが、度重なる冠水の被害を避けるため、幕末期に高時川の川底に導水路が通された（現在のカルバートは昭和41年改修）。田川流域の治水のシンボルである。



現在の田川カルバート(西側)